

新しい命をはぐくむ

市立東白石小学校サケ学習

「サケをふるさとの川に呼び戻そう」

子どもたちが一つになって取り組んできた「サケ学習」。

連綿と続いて来た取り組みの成果は、

毎年豊平川を遡上するサケたちの姿に現れている。



授精式に参加した5年生児童と、市内の小中学校唯一のふ化場である「さけ学習館」。(平成15年10月31日)

カムバックサーモン

約二十五年前、一人の五年生児童が「*カムバックサーモン運動に協力しよう」と学級会で提案した。これが「サケ学習」のきっかけだった。提案は学年集会、全校集会へと広がり、全校児童が一つになった取り組みは募金活動として結実した。「自分たちの手でサケを育ててみたい」。さらに大きく膨らむ子どもたちの夢は、大人たちを巻き込んで実現に動き出す。

ふ化、飼育に挑戦

サケを育てるには、近くの白石神社境内のわき水が適していることが分かり、神社の池を借りてミニふ化場が作られた。そこで北海道さけ・ますふ化場から分けてもらった二千粒の卵を育てた。子どもたちは雪の日も観察日記を書いたり、ふ化かごをきれいにしたり懸命に世話を続けた。春、大事に育てられた元気なサケの稚魚は、子どもたちの手で豊平川に放流された。

学校にふ化場が建つ

子どもたちは、白石神社の境内にあるふ化場まで十分ほどの道のりを毎日歩いて通い、卵や仔魚の観察と餌を与える



地下145メートルからくみ上げた地下水を利用する飼育(養魚)槽。

などの世話を続けていた。その熱心な取り組みが各方面から認められ、ふ化、飼育を始めてから五年目に、校庭に地下水を利用したふ化場が作られることになった。

親サケの顔をイメージしたデザインの本格的な建物に、流水式の置かれた。「さけ学習館」と名付けられたこの建物ができたことで、卵を取り出すところから体験できるようになり、子どもたちのサケに対する興味が一層深められた。

*カムバックサーモン運動～豊平川にサケを呼び戻す市民運動。昭和54年に100万匹のサケの稚魚が豊平川に放流された。